

2 地域別まちづくりの方針

1. 下田・本郷地域

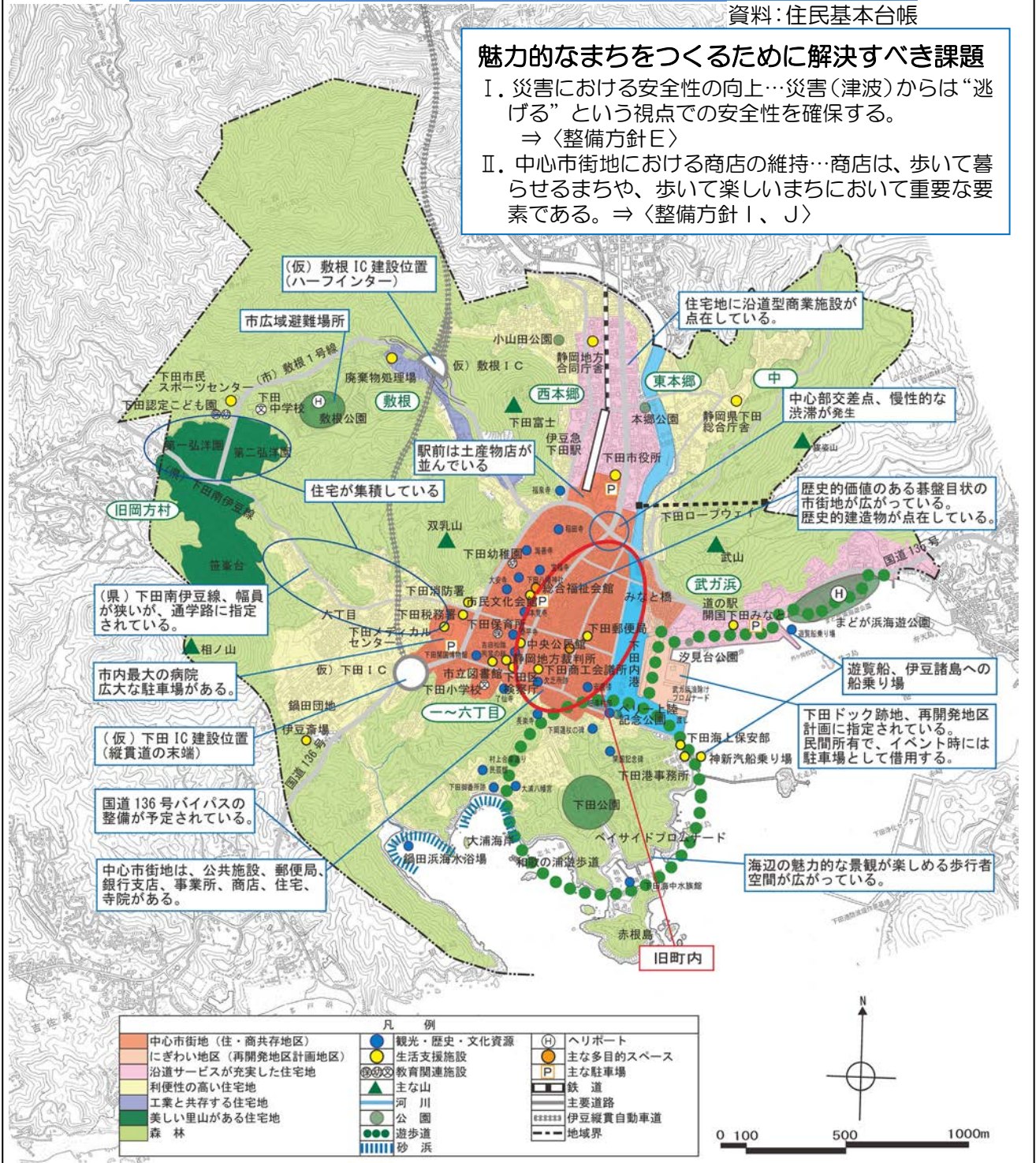
下田・本郷地域の現況と課題

地域の人口と世帯数の推移	H20	H22	H24	H26
人口(人)	9,871	9,597	9,280	8,936
世帯数(世帯)	4,677	4,664	4,593	4,575

資料：住民基本台帳

魅力的なまちをつくるために解決すべき課題

- I. 災害における安全性の向上…災害(津波)からは“逃げる”という視点での安全性を確保する。
⇒〈整備方針E〉
- II. 中心市街地における商店の維持…商店は、歩いて暮らせるまちや、歩いて楽しいまちにおいて重要な要素である。⇒〈整備方針I、J〉



■下田・本郷地域の将来像

「歴史や文化、港を感じ、人のにぎわいがある下田・本郷」

◆地域づくりの基本方針

- ① 土地利用と交通：まちの活力を維持するための基礎をつくる
- ② 安全と都市施設：安全面の向上と人々が集まる機能をつくる
- ③ 自然、歴史、文化、賑わい：にぎわい続けるための魅力をつくる

整備方針：◎早期実行プロジェクト、◆都市マス実践業務、●重点プロジェクト
 取組施策：☆取組中、★取組完了、1. 市民・事業者・行政協働で取り組む施策

① 土地利用と交通：まちの活力を維持するための基礎をつくる

<整備方針A 商業施設と住宅地の調和>

A-1) 緑や海等の自然環境と調和した市街地を形成する。〈用途地域内〉

伊豆急下田駅周辺	国道沿いに、商業・業務施設や観光・サービス施設の立地を進め、世界中からの来訪者をもてなす下田の玄関口としての機能を充実する。
本郷地区	生活を中心としつつ、生活利便性を高めるため、国道沿いに、生活関連商業施設の配置を行う。
旧町内	商店街と住宅、歴史資源が共存する市街地として、商店街の活性化や住環境の維持、歴史資源の活用を進める。
五丁目・六丁目の住宅地（岩下等）	住・商が共存する市街地として、住環境を維持するとともに、小売店等の立地により利便性を向上する。
中地区	住・商が共存する市街地として、住環境の維持とともに、店舗の立地により利便性を向上する。
外ヶ岡地区 柿崎地区（間戸浜）	宿泊施設を中心とした市街地として、宿泊施設や店舗（飲食店・小売店等）の立地を進める。
敷根地区	住・工が共存する市街地として、公害防止等により住環境を維持する。

取組施策

1. 用途地域の指定の継続
2. 土地利用や建物、景観、緑化などのさらなるルールづくり

A-2) 丘陵地にある分譲地は、緑に囲まれた閑静な住環境を維持する。

取組施策

1. 建築協定等の推進

A-3) 新たな産業の創造（誘致）と空き家・空き店舗対策を行う。

取組施策

1. 定住者、サテライトオフィスなどの誘致
2. 空き家・空き店舗の情報提供

A-4) 市街地を取り囲む山々の緑を保全する。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.社寺林を守るための都市計画手法の導入 2.専門家による指導体制の確立（林業家の育成への支援、森林整備への支援など）
-------------	--

A-5) 大浦海岸や鍋田浜の変化に富んだ美しい砂浜や森林が織りなす海岸景観を保全する。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.「富士箱根伊豆国立公園」の指定継続・管理 2.森林や海岸へのごみの投棄防止
-------------	--

◆A-6) 武ガ浜の再開発地区計画地区（旧下田ドック跡地）は、道の駅や中心市街地と連携し、賑わいに結びつくような空間の形成を図るべく、活用を促進する。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.武ガ浜再開発地区計画地区におけるまちづくりに沿った内容の適正な見直し（水辺空間の活用の検討） 2.武ガ浜再開発地区の地区計画に基づく土地の活用
-------------	--

<整備方針B 良好な交通環境の確保>

B-1) インターチェンジへのアクセス、インターチェンジから市街地へのアクセス道路、市街地に通過交通が入らないような道路網を整備する。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> ☆1.伊豆縦貫自動車道の整備 2.国道135・136号の再整備、市道敷根1号線の改良、(都)下田港横枕線の整備
-------------	--

B-2) すべての人が自由に移動できるように公共交通機関の充実を図る。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.路線バスの維持 2.路線バスによる縦貫道活用の検討 3.サイクル&ライド、サイクル&トレインライド（バスライド）の検討
-------------	---

B-3) 暮らしやすい環境を作るため、地区道路の改善を図る。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.道路の維持・管理（国道、県道、市道）（県道下田南伊豆線の整備 [待避所の設置等]など）
-------------	---

B-4) 海上交通と陸上交通の結節点になる地点については、海の玄関口として施設及び環境の充実を図る。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.海上交通の充実（既存ルートの充実・新規ルートの開拓など） 2.遊覧船の維持
-------------	--

<整備方針C 訪れやすい中心市街地>

- ◆C-1) 江戸時代の町割りを残す旧町内の道路は、歴史的な価値があることから、現道を生かした、歩きやすい道路の整備を行う。

取組施策	☆1.都市計画道路((都)中島大浦線、(都)中原岩下線)の見直し 2.電柱類の民地側への移動、又は電線類地中化等の検討 3.商店街等の交通規制の検討(自動車通行の時間帯規制、一方通行など)
------	--

- C-2) 中心市街地の周辺で、自家用車等でも立ち寄りやすい仕組みをつくり、歩いて周りやすい環境をつくる。

取組施策	1.民間駐車場・市営駐車場の確保 2.駐車場の使い方(料金、駐車時間等)や交通体系(一方通行の効果)における調査 3.中心市街地と武ガ浜とを結ぶ動線の検討
------	---

- C-3) 下田公園内の遊歩道や既存の遊歩道とのネットワークの強化や遊歩道までのアクセスを向上する。

取組施策	1.下田公園内の散策路やバイサイドプロムナード、和歌の浦遊歩道の管理
------	------------------------------------

<整備方針D 駅周辺の賑わい創出>

- D-1) 伊豆急下田駅周辺地区は、まちの活性化、防災面の観点から、駅などを含む再開発等を検討する。

取組施策	1.伊豆急下田駅周辺地区整備計画の策定
------	---------------------

- D-2) 伊豆急下田駅がさらに利用しやすくなるよう強化を図る。

取組施策	1.伊豆急下田駅前広場の改修(一時停車スペースの確保など) 2.街中の魅力が伝わる案内看板の設置
------	---

② 安全と都市施設：安全面の向上と人々が集まる機能をつくる

<整備方針E 防災対策>

- E-1) 地震や津波、風水害に負けない地域をつくる。

取組施策	1.(来訪者を含めた)災害時の避難体制・協力体制づくり 2.避難路の整備(縦貫道の活用等) 3.避難路沿道の閉塞対策(狭あい道路の解消) 4.高台までの誘導標識の設置 5.津波避難施設の充実 6.土砂災害対策施設の整備 7.指定避難場所等の備蓄の充実
------	---

- ☆8.外防波堤の整備
- 9.既存建築物の耐震化
- 10.集客施設における避難対策の実施
- 11.津波対策施設（水門等）の整備
- 12.密集市街地における防災空地等設置の検討
- 13.耐火建築物の建設
- 14.準防火地域指定の継続
- 15.災害後に備えた、地籍調査の実施

E-2) 地震で火災が発生した場合、瓦礫等の障壁により消火活動が妨げられることがないように、道路拡幅等により震災時における消防活動困難区域※の解消を図る。

取組施策	1.大川端通りや市道伊勢町脇ノ田線(マイマイ通り～国道 136号区間)などの改良による消防活動困難区域※の解消
-------------	---

E-3) 下田市を縦断できる道路網として伊豆縦貫自動車道の(仮)敷根IC周辺を防災拠点の一つとする。

取組施策	1.敷根の高台地区の広域防災機能の強化
-------------	---------------------

※消防活動困難区域：幅員6メートル以上の道路から消防ホースが届かない区域

<整備方針F 暮らしやすさと働きやすさの向上>

F-1) (二)稲生沢川や(二)平滑川、(二)敷根川、下田港の水質の維持により、衛生環境を維持する。

取組施策	1.下水道への接続・合併処理浄化槽の設置
-------------	----------------------

F-2) 新たな情報インフラ（高速通信網）の整備の促進により、市民が暮らしやすく働きやすくなるとともに、外国人旅行者にとっても快適な環境をつくる。

取組施策	1.情報インフラ（高速通信網）の整備
-------------	--------------------

<整備方針G 人々が集まるための環境づくり>

G-1) 市民や来訪者が運動できる場をつくり、健康の増進や、スポーツを通じて賑わう拠点をつくる。

取組施策	<ul style="list-style-type: none"> 1.敷根公園の維持管理 2.スポーツ合宿や陸や海を活用した大会等の誘致 3.合宿のための宿泊施設の維持
-------------	---

③ 自然,歴史,文化,賑わい：にぎわい続けるための魅力をつくる

<整備方針H 海とウォーターフロントの活用>

H-1) 道の駅開国下田みなとや、まどが浜海遊公園等の既存の交流拠点を有効に利用し、市民や来訪者が憩えるにぎわい高い空間を演出する。

取組施策	☆1.道の駅や、まどが浜海遊公園等におけるイベントの開催 2.外ヶ岡地区周辺におけるサイン設置等のルールづくり
------	--

H-2) 海岸線一帯では、海のレクリエーションを楽しむための環境を整備する。

取組施策	1.海を活かしたイベントの開催・PR 2.海釣り等ができる環境整備
------	--------------------------------------

<整備方針I 中心市街地の魅力向上>

I-1) 周辺の自然景観と併せ、なまこ壁や伊豆石造りの民家等の歴史的建造物、パリーロードの街並みを後世に残す。

取組施策	1.都市計画法や歴史まちづくり法に基づいた保存の検討 2.歴史的建造物や伊豆石石切場跡の活用の検討 3.歴史資源に関する意識向上（歴史文化を伝える場の提供・参加） 4.建物等の由来を記した統一された看板の設置 5.下田の歴史や街並み景観に配慮した、外観を大きく変えない耐震化
------	---

I-2) 来訪者や買い物客が、市街地で買い物や飲食をしたくなる環境の充実を図る。

取組施策	1.個店の魅力の向上（商品配置の工夫等、経営指導の実施など） 2.地元産品を活用した商品開発・販売、チャレンジショップの展開 3.干物店等の下田らしい店舗の維持
------	--

● I-3) 訪れた人がゆったり過ごせるような工夫をする。

取組施策	1.休憩スペース、ベンチなど休憩施設の設置 ☆2.プランターなどによる花の植栽 3.防災空地にもなる、街中で人々が集える空間の整備
------	---

● I-4) 大川端通りは、旧町内と臨海部をネットワークする空間、みなとまちらしい雰囲気を感じられる空間として環境整備を進める。

取組施策	1.大川端棧橋の維持管理（修景整備など） 2.大川端の朝市等による活用
------	--

I-5) 地域に残る祭りを守る。

取組施策	1.祭り等の継続的な開催
------	--------------

<整備方針 J 中心市街地の魅力を感じられる仕組みづくり>

J-1) 伊豆縦貫自動車道(仮)下田 IC から市街地への誘導を図る。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.(仮)下田 IC 周辺の土地利用や建物、景観等のルールづくり(地区計画等の検討) 2.誘導を図るための案内板の設置
-------------	--

J-2) 文化・教育施設等の生活支援施設、銀行、郵便局などの生活支援施設などを可能な限り市街地に残すことにより集客力を高める。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.文化施設や教育施設の改修、施設周辺の景観整備(ユニバーサルデザインに基づく整備) 2.公的施設の災害時における安全性の確保(整備方針 E 参照)
-------------	---

◎ J-3) みなとまちの文化を感じられる大川端通り等を通ってもらうための仕組みづくりをする。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.案内看板による大川端通り等への誘導 2.駐車場から歩行者ルートへの誘導方法の検討
-------------	---

● J-4) 来訪者を意識した丁寧な案内看板づくりを行う。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.観光や防災の情報を一つにまとめた看板の設置(多国語対応) 2.案内看板への LED 照明(太陽光充電)の設置
-------------	---

● J-5) 情報社会に対応した、新たな情報伝達手段による誘客を行う。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.インターネットを活用した地域の紹介
-------------	---

◎ J-6) 困っている来訪者に直接声をかけるなど、親切に来訪者をもてなすという精神を忘れない。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.来訪者への声掛け 2.市民がお勧めする場所(飲食店など)のマップづくり 3.ごみの投棄防止
-------------	---

J-7) 外ヶ岡等のホテルの来訪者が、中心市街地に訪れる機会や食事ができる仕組みをつくる。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1.ホテルと中心市街地の送迎手段の確保 2.中心市街地における送迎用の駐車場の確保 3.中心市街地で食事をすることによる特典の検討 4.下田タイム(市内で夏場時計を1時間早めるしくみ)の導入
-------------	--

下田・本郷地域まちづくり方針図

〈地域の将来像〉
**「歴史や文化、港を感じ、
 人のにぎわいがある下田・本郷」**

〈地域づくりの方針〉
 ①土地利用と交通：まちの活力を維持するための基礎をつくる
 ②安全と都市施設：安全面の向上と人々が集まる機能をつくる
 ③自然、歴史、文化、賑わい：にぎわい続けるための魅力をつくる

整備方針：◎早期実行プロジェクト、◆都市マス実践業務、
 ●重点プロジェクト
 取組施策：☆取組中、★取組完了

●②E-1 地震や津波、風水害に負けない地域をつくる。
 ☆②E-1-8 外防波堤の整備

☆①B-1-1 伊豆縦貫自動車道の整備

●①D-2 伊豆急下田駅がさらに利用しやすくなるよう強化を図る。

●③I-4 大川端通りは、旧町内と臨海部をネットワークする空間、みなとまちらしい雰囲気を感じられる空間として環境整備を進める。

☆③H-1-1 道の駅や、まどが浜海遊公園等におけるイベントの開催

◆①A-6 武ガ浜の再開発地区計画地区(旧下田ドック跡地)は、道の駅や中心市街地と連携し、賑わいに結びつくような空間の形成を図るべく、活用を促進する。

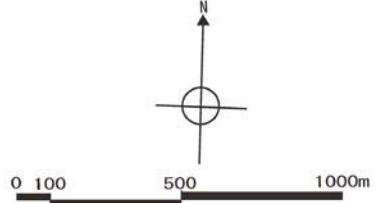
●③I-3 訪れた人がゆったり過ごせるような工夫をする。
 ☆③I-3-2 プランターなどによる花の植栽
 ●③J-4 来訪者を意識した丁寧な案内看板づくりを行う。
 ●③J-5 情報社会に対応した、新たな情報伝達手段による誘客を行う。
 ◎③J-6 困っている来訪者に直接声をかけるなど、親切に来訪者をもてなすという精神を忘れない。

◎③J-3 みなとまちの文化が感じられる大川端通り等を通してもらうための仕組みづくりをする。

◆①C-1 江戸時代の町割りを残す旧町内の道路は、歴史的な価値があることから、現道を生かした、歩きやすい道路の整備を行う。

☆①C-1-1 都市計画道路((都)中島大浦線、(都)中原岩下線)の見直し

凡例	
中心市街地(住・商共存地区)	● 観光・歴史・文化資源
にぎわい地区(再開発地区計画地区)	● 生活支援施設
沿道サービスが充実した住宅地	◎◎ 教育関連施設
利便性の高い住宅地	▲ 主な山
工業と共存する住宅地	■ 河川
美しい里山がある住宅地	● 公園
森林	● 遊歩道
	■ 砂浜
	○ H へりポート
	● 主な多目的スペース
	■ P 主な駐車場
	— 鉄道
	— 主要道路
	— 伊豆縦貫自動車道
	--- 地域界



2. 稲生沢地域

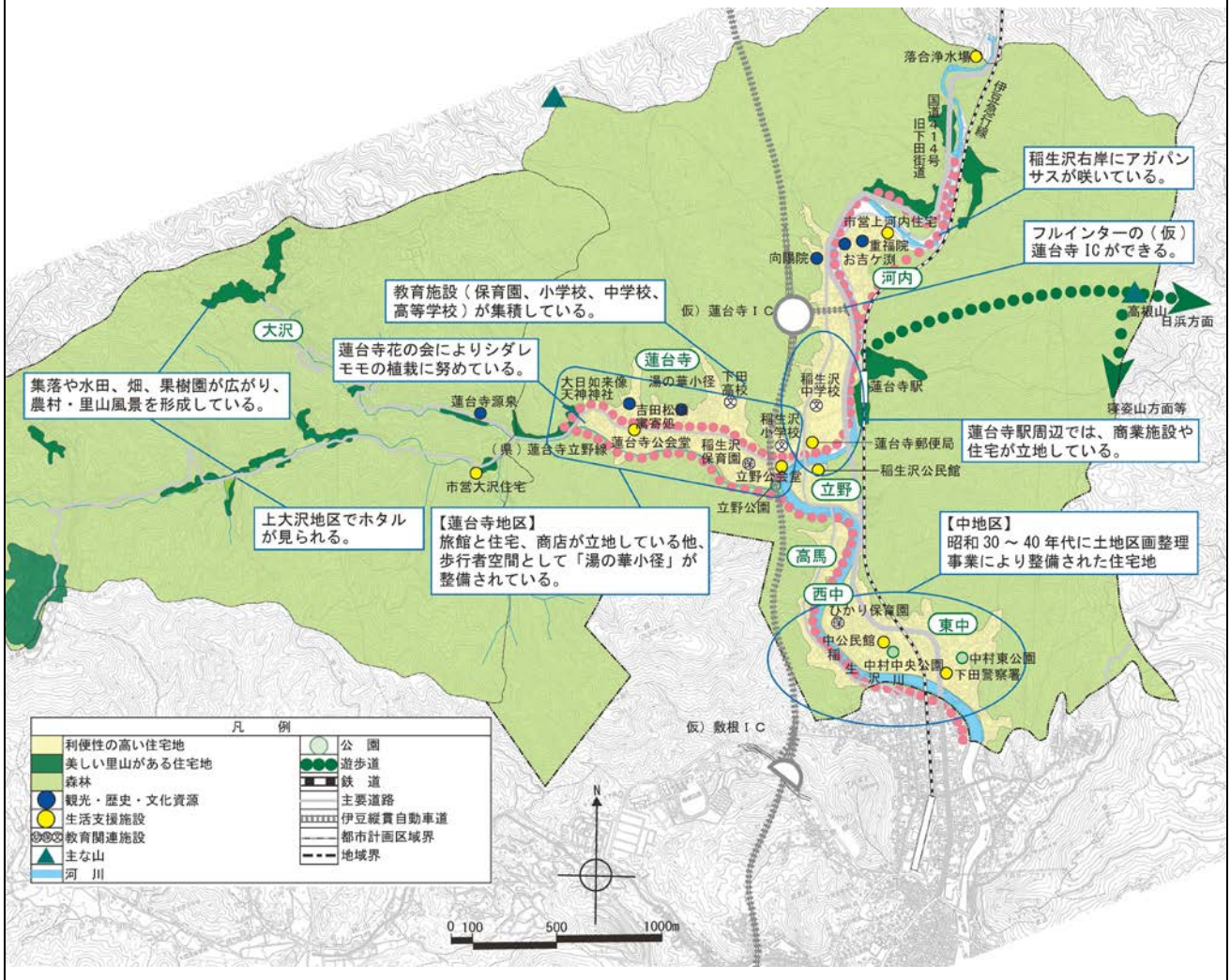
稲生沢地域の現況と課題

地域の人口と世帯数の推移	H20	H22	H24	H26
人口(人)	3,586	3,476	3,370	3,295
世帯数(世帯)	1,622	1,604	1,592	1,601

資料：住民基本台帳

魅力的なまちをつくるために解決すべき課題

- I. 良好な住環境の確保………住民が誇れる地域をつくり、地域に暮らし続けたい人を増やす。
⇒〈整備方針F〉
- II. (仮)蓮台寺ICの活用………伊豆縦貫自動車道の利用者に地域の魅力を知ってもらう。
⇒〈整備方針F、G〉



■稲生沢地域の将来像

「身近な自然と歴史や温泉を活かした、人にやさしい稲生沢」

◆地域づくりの基本方針

- ① 土地利用と交通：自家用車だけに頼らない交通の基礎をつくる
- ② 安全と都市施設：安全面の向上と暮らしが楽しくなる機能をつくる
- ③ 自然、歴史、文化、賑わい：地域が誇れる魅力をつくる

整備方針：◎早期実行プロジェクト、◆都市マス実践業務、●重点プロジェクト
 取組施策：☆取組中、★取組完了、1. 市民・事業者・行政協働で取り組む施策

① 土地利用と交通：自家用車だけに頼らない交通の基礎をつくる

<整備方針A 自然環境の維持と生産活動の活性化>

A-1) 高根山等、特徴ある山並み景観を維持・保全する。

取組施策	1.森林の適正管理（私有林）
------	----------------

A-2) 稲生沢川や周囲の山々と調和した市街地をつくる。〈用途地域内〉

西中、東中 高馬地区	住・商が共存する市街地として、住環境の維持とともに、店舗の立地により利便性を向上する。
立野地区	高校や中学校、小学校等の文教地区と温泉、住宅が集中する地域として、安全性を高める。特に、伊豆縦貫自動車道周辺の土地利用に配慮する。
蓮台寺地区	宿泊施設と住宅が共存する市街地として、住環境と温泉街としての特徴ある街並みを維持すると共に、風格のある落ち着いた温泉街景観を維持する。
河内地区	住宅と温泉を中心とした市街地として落ち着いた住環境を維持する。特に、伊豆縦貫自動車道(仮)蓮台寺IC周辺は、地域の環境を守り、無秩序な開発を防止し、地域活性化に繋がる施設等の誘導を図る。

取組施策	1.用途地域等のルールの指定継続 2.伊豆縦貫自動車道高架下の土地の活用検討(立野公園の区域拡大による文教関連施設の充実等) 3.(仮)蓮台寺 IC 周辺における無秩序な開発の防止と生活に必要な施設の誘致(地区計画等の活用)
------	--

A-3) 大沢地区の里山風景、住環境を維持する。

取組施策	1.緑化推進と里山風景保全のための適正管理 2.森林の適正管理（私有林）
------	---

●A-4) 新たな就業環境の創造と空き家対策を図る。

取組施策	1.定住者の誘致 2.学生に対する、市内での就業希望意向調査の実施 3.サテライトオフィスなど多様な職種の誘致 4.空き家・空き店舗の情報提供
------	--

<整備方針B 良好な交通環境の確保>

B-1) 道路の維持ならびに地区の交通における安全性の確保を図る。

取組施策	1.道路の維持・管理（国道、県道、市道） 2.建て替え時にセットバックすることによる生活道路の 拡幅（地区計画等の活用）
------	--

●B-2) 高校や中学校、小学校等の文教施設が集まる地区周辺は、地域の状況を踏まえつつ、児童・生徒が安心・安全に通学できる環境づくりを継続して行う。

取組施策	☆1.学校等と連携した通学・送迎時の児童・生徒・保護者のマナー教育 2.県道蓮台寺立野線・市道立野お吉ヶ淵線等におけるカラー舗装などの維持管理や延長の検討 ☆3.国道414号の整備（歩道設置など）
------	--

B-3) すべての人が自由に移動できるように公共交通機関の充実を図る。

取組施策	1.駅を中心とした、集落を結ぶコミュニティバス等の運行確保
------	-------------------------------

●B-4) 稲生沢地域から下田・本郷地域までを、公共交通機関、自転車、徒歩などで巡ることができる環境をつくり、来訪者の回遊性を高め、公共交通機関の活用機会も増やす。

取組施策	1.(仮)蓮台寺IC周辺への駐車場整備（縦貫道高架下など） 2.サイクル&ライド、サイクル&トレインライド（バスライド）の検討 3.自転車道の整備 4.伊豆縦貫自動車道を活用したバス・タクシーの利用検討
------	--

②安全と都市施設：安全面の向上と暮らしが楽しくなる機能をつくる

<整備方針C 防災対策>

C-1) 地震や津波、風水害に負けない地域をつくる。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1. (来訪者を含めた) 災害時の避難体制・協力体制づくり 2. 既存建築物の耐震化 3. 避難路の整備 4. 避難路沿道の閉塞対策 (狭あい道路の解消) 5. 高台までの誘導標識の設置 6. 土砂災害対策施設の整備 7. 指定避難場所等の備蓄の充実 8. 災害により道路が寸断された時の大沢地区における対応検討
------	---

<整備方針D 暮らしやすさと働きやすさの向上>

D-1) 上下水道などの普及により、暮らしやすい環境づくりを行う。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水道未給水地域 (大沢) における上水道施設の拡張整備の推進 2. 下水道の普及と下水道指定区域外の合併処理浄化槽の普及
------	--

D-2) 新たなインフラ (高速通信網) 整備の促進により、暮らしやすく働きやすい環境を整備する。

取組施策	1. 情報インフラ (高速通信網) の整備推進
------	-------------------------

<整備方針E 回遊したくなる空間の形成>

◆E-1) 水のきれいな川を維持し、稻生沢川沿いや蓮台寺川沿いを歩きやすい環境にする。

取組施策	<ol style="list-style-type: none"> ☆1. 河川堆積物の除去 2. 稻生沢川、蓮台寺川の親水空間の整備・管理
------	---

E-2) 森林や歴史を感じることができる、旧下田街道を楽しめる環境をつくる。

取組施策	1. 遊歩道、施設等における案内板の設置
------	----------------------

E-3) 高根山や寝姿山等の周囲の山々を巡る散策ルートを整備・管理する。

取組施策	1. 高根山等の遊歩道の整備・管理
------	-------------------

E-4) 落ち着いた蓮台寺温泉の雰囲気を楽しめる空間をつくる。

取組施策	1.温泉宿泊施設の整備・管理 ☆2.湯の華小径の管理
------	-------------------------------

③ 自然,歴史,文化,賑わい：地域が誇れる魅力をつくる

<整備方針F 花々が彩り、歴史を感じる空間づくり>

◎F-1) 市民や来訪者が、歩きたくなるような空間の整備を行う。

取組施策	☆1.市民によるシダレモモ等花の植栽・管理 2.国指定有形重要文化財の大日如来等の歴史資源の保存・継承PR 3.大沢地区のホテルや、吉田松陰などの各地区の歴史・文学等の資源の掘り起し ☆4.沿道への花の植栽・管理（アダプトプログラムの実施など） 5.蓮台寺温泉の雰囲気を感じる景観づくり 6.道路や河川の清掃活動 7.稲生沢地域の温泉、歴史、自然の散策マップづくり 8.案内看板づくり 9.散策コースにおける交流スペースの確保（宿泊温泉施設の活用等） 10.散策コースの維持管理と安全対策における検討
------	---

F-2) 高根山、温泉街の背景となる森林等、特徴ある山並み景観を維持・保全する。

取組施策	1.森林や河川へのごみの投棄防止 2.都市計画法等の手法の活用による自然景観の保全 3.山並みやまちなみが望める展望場所の確保
------	---

F-3) 中の瀬地区などに残るなまこ壁や伊豆石造りの民家を残す。

取組施策	1.歴史資源に関する意識啓発（歴史文化を伝える場の提供・参加） 2.歴史資源の保全活動の実施 3.歴史資源の保全の仕組みづくり 4.歴史的建造物の耐震化
------	---

●F-4) 祭りを継承する。

取組施策	1.祭りの継承 2.祭りにおける各地区間の連携の検討 3.河内手筒花火のPR
------	--

<整備方針G 暮らしたくなる稲生沢のPR>

G-1) (仮)蓮台寺ICを通過する来訪者に、地域を知ってもらう機会をつくる。

取組施策	1.伊豆縦貫自動車道側から見える景観の演出 2.主要道路の看板規制並びに色彩計画導入による景観形成(地区計画等の活用) 3.地域をPRできる伊豆縦貫自動車道IC名称及び伊豆急行線の蓮台寺駅副駅名※の表示
-------------	---

G-2) 情報社会に対応した、新たな情報伝達手段による誘客を行う。

取組施策	1.インターネットを活用した地域の紹介 2.作成したマップを広域に配信
-------------	--

※副駅名：副駅名標板、副駅名標ともいう。駅名を定めて以降、時代の変遷により大学やレジャー施設、博物館などが整備され、駅の名称に施設名を副駅名として加えることで、駅の場所がわかりやすくなり、利用者が繋がることから、近年副駅名を付けることが増えつつある。(例：都営地下鉄 正：御成門 副駅名：東京タワー前、正：両国 副駅名：江戸東京博物館前 京王電鉄 正：南大沢 副駅名：首都大学東京 最寄駅)

